

- タ イ ト ル : がん在宅療養フォーラム 2025 大阪
「いつでも頼れるがんの情報と相談先
探す、選ぶ、そして活用する」

アンケート

- 日 時 : 2025年2月23日(日・祝)14:00~16:30
- 会 場 : 会場とオンラインのハイブリッド開催
会場: 大阪医科薬科大学 本部北キャンパス(看護学部)講堂
(大阪府高槻市八丁西町7-6)
- 対 象 : がん患者さん、ご家族、支援者、医療従事者、介護・福祉関係者、行政担当者はじめ、
どなたでもご参加いただけます。
- 開 催 概 要 : 診断と治療の進歩により、がんの医療は大きな進歩を遂げています。一方で、通院期間
が長くなったり、治療に伴う副作用や後遺症のためのケアが必要になったり、生活面や経
済的な面、人間関係を含めて不安や心配ごとに悩むがん患者さん・家族の皆さまは多く
いらっしゃると思います。病気を経験した方を、治る・治らないに関わらずその人として寄り添う、
支えるという考え方が広がってきています。また、最近では生成系人工知能(AI)をはじめ
として、大量の情報をもとに、情報提供や相談に活用できる技術が発達してきています。
フォーラムでは、信頼できる情報と相談窓口についてご紹介しながら、活用できる情報
ツールや、支え合いの場、そして誰もが取り残されない支援の輪の充実について話し合
います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。
- 参加者数(講師含) : 116名(会場25名+オンライン91名、講師のぞく)
- アンケート回収数 : 69 件

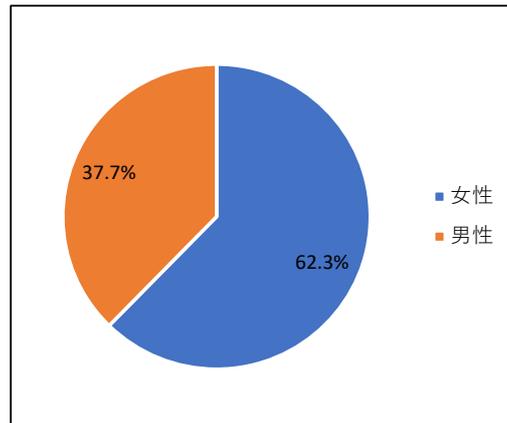
共 催 : 大阪医科薬科大学次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
一般財団法人在宅がん療養財団

後 援 : 一般社団法人日本がんサポーターシップケア学会

協 力 : がんと共に生きる会25周年委員会
NPO法人大阪がんええナビ制作委員会
地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト

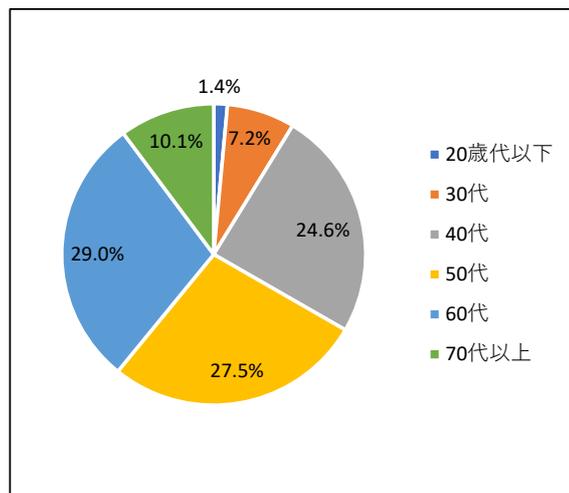
Q1.性別を教えてください

	件数	比率
女性	43	62.3%
男性	26	37.7%
合計	69	100.0%



Q2.年代をお選びください

	件数	比率
20歳代以下	1	1.4%
30代	5	7.2%
40代	17	24.6%
50代	19	27.5%
60代	20	29.0%
70代以上	7	10.1%
合計	69	100.0%

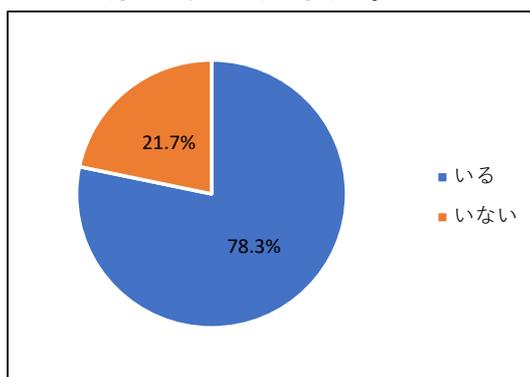


Q3.お住まいの区市町村を教えてください

都道府県	件数	比率
大阪府	31	44.9%
兵庫県	6	8.7%
神奈川県	6	8.7%
東京都	5	7.2%
石川県	2	2.9%
静岡県	2	2.9%
京都府	2	2.9%
和歌山県	2	2.9%
愛媛県	2	2.9%
山形県	1	1.4%
群馬県	1	1.4%
埼玉県	1	1.4%
愛知県	1	1.4%
岡山県	1	1.4%
鳥取県	1	1.4%
広島県	1	1.4%
山口県	1	1.4%
福岡県	1	1.4%
熊本県	1	1.4%
沖縄県	1	1.4%
	69	100.0%

Q4.現在または過去にご自身やご家族、周囲にがんにかかっている方はいらっしゃいますか。

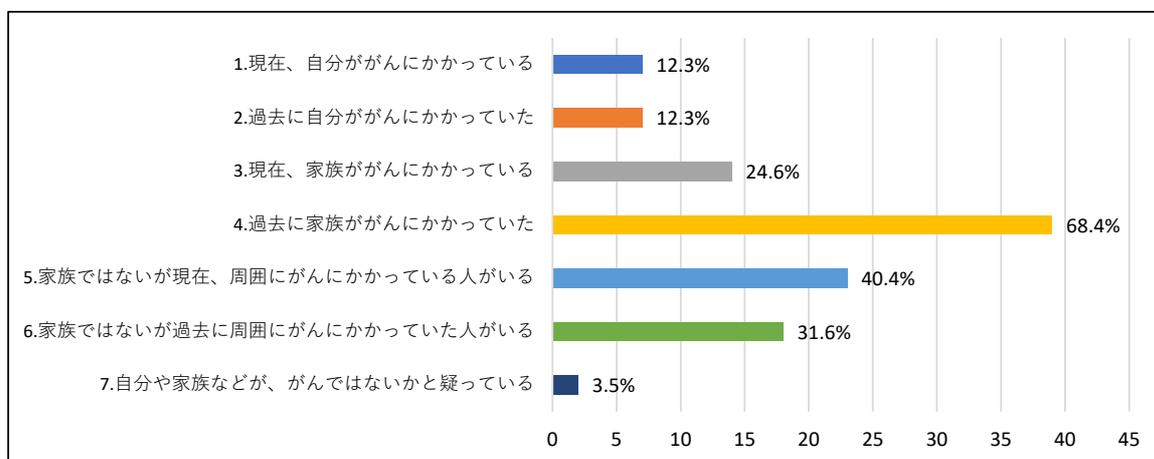
	件数	比率
いる	54	78.3%
いない	15	21.7%
合計	69	100.0%



a. (いると回答された方) 当てはまるものすべてをチェックしてください。

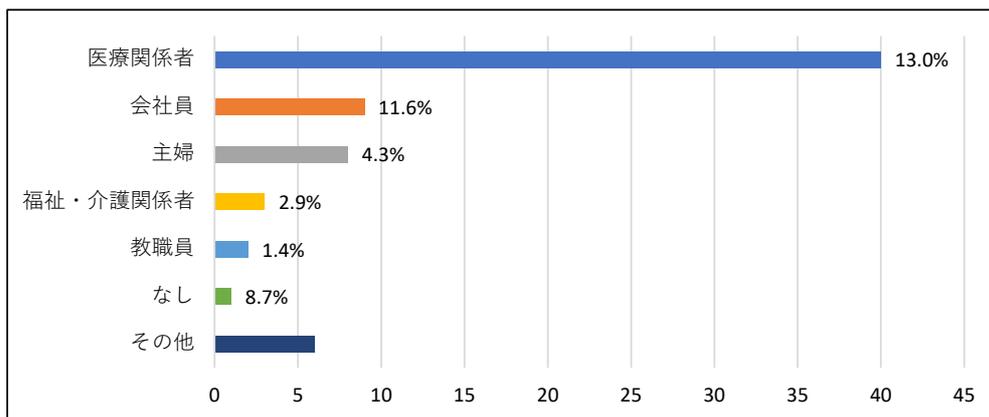
	件数	比率
1.現在、自分ががんにかかっている	7	12.3%
2.過去に自分ががんにかかっていた	7	12.3%
3.現在、家族ががんにかかっている	14	24.6%
4.過去に家族ががんにかかっていた	39	68.4%
5.家族ではないが現在、周囲にがんにかかっている人がいる	23	40.4%
6.家族ではないが過去に周囲にがんにかかっていた人がいる	18	31.6%
7.自分や家族などが、がんではないかと疑っている	2	3.5%
回答数	110	
回答者数	57	

※複数回答の為、回答者数より比率を算出しています。



Q5. 職種をお聞かせください。

	件数	比率
医療関係者	40	58.0%
会社員	9	13.0%
主婦	8	11.6%
福祉・介護関係者	3	4.3%
教職員	2	2.9%
なし	1	1.4%
その他	6	8.7%
合計	69	100.0%

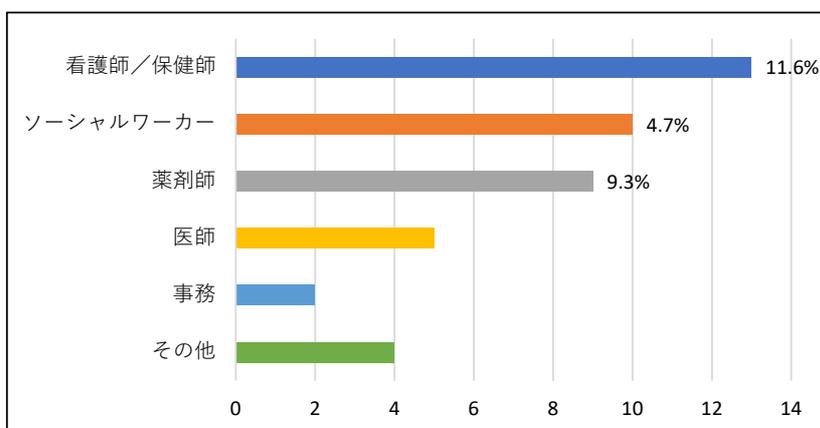


Q6. 上記で「3.医療関係者」および「4.福祉・介護関係者」にチェックされた方にお尋ねします。

(1) 職種・専門分野をお聞かせください。

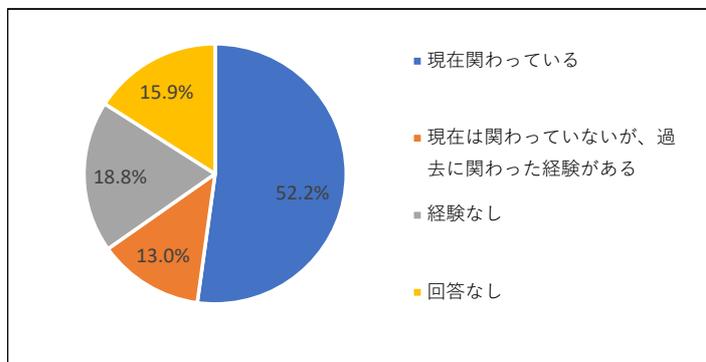
	件数	比率
看護師／保健師	13	30.2%
ソーシャルワーカー	10	23.3%
薬剤師	9	20.9%
医師	5	11.6%
事務	2	4.7%
その他	4	9.3%
合計	43	100.0%

その他：臨床心理士、理学療法士、など



(2)がん患者さんやご家族などに対する相談支援に関わったご経験をお聞かせください。

	件数	比率
現在関わっている	36	52.2%
現在は関わっていないが、過去に関わった経験がある	9	13.0%
経験なし	13	18.8%
回答なし	11	15.9%
合計	69	100.0%

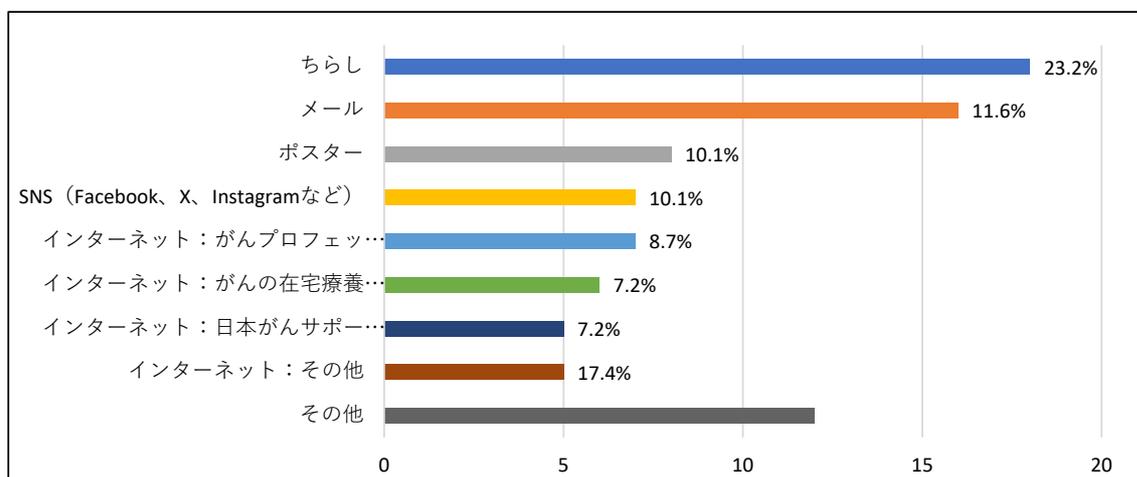


Q7.本日のフォーラムをどこで知りましたか。

	件数	比率
ちらし	18	26.1%
メール	16	23.2%
ポスター	8	11.6%
SNS (Facebook、X、Instagramなど)	7	10.1%
インターネット：がんプロフェッショナル養成プラン	7	10.1%
インターネット：がんの在宅療養サイト	6	8.7%
インターネット：日本がんサポート学会	5	7.2%
インターネット：その他	5	7.2%
その他	12	17.4%
回答数	84	
回答者数	69	

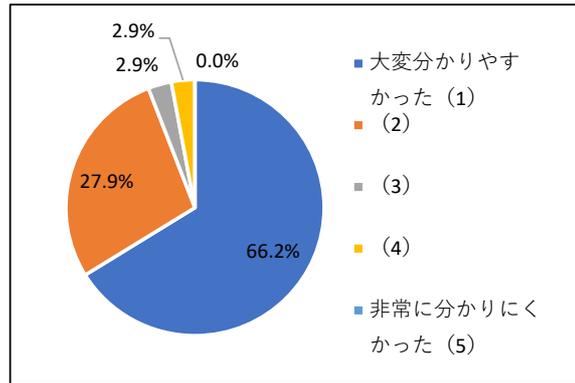
その他：知人から、家族から、登壇者からなど

※複数回答の為、回答者数より比率を算出しています。



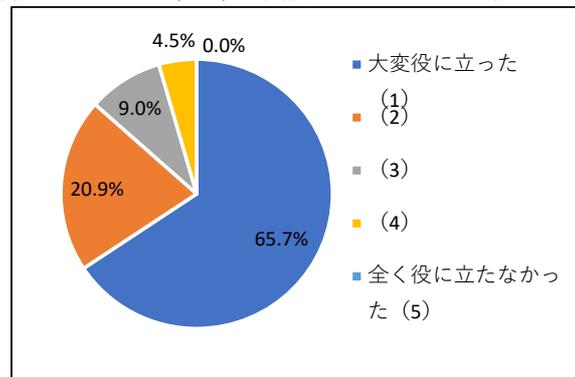
Q8.フォーラムの内容は分かりやすかったですか。(5段階で評価してください) (1大変分かりやすかった-5非常にわかりにくかった)

	件数	比率
大変分かりやすかった (1)	45	66.2%
(2)	19	27.9%
(3)	2	2.9%
(4)	2	2.9%
非常に分かりにくかった (5)	0	0.0%
合計	68	100.0%



Q9.フォーラムの内容は役に立ちましたか。(5段階で評価してください) (1大変役に立った-5全く役に立たなかった)

	件数	比率
大変役に立った (1)	44	65.7%
(2)	14	20.9%
(3)	6	9.0%
(4)	3	4.5%
全く役に立たなかった (5)	0	0.0%
合計	67	100.0%



Q10.あなたの考える「いつでも頼れるがんの情報と相談先」とは、どのような人や場所ですか。ご自由にお書きください。

主治医（病院）、看護師 …11件

がん相談支援センター …6件

信頼出来る人、近い人（患者仲間含む） …6件

ピアサポーター …5件

書籍、インターネット（がん情報サービス） …3件

公的な機関 …3件

立ちよりやすく、いつでも相談できる場所 …3件

ITの情報も一つのツールですが、やはり対面や電話など、実際の人との相談が、心強いのではないかと。
ピアサポーターやがん医療ネットワークナビゲーターのような、相談する、つなぐ役割を担う人材が町中のどこにでも身近な所に居て、がん相談支援センターなど適切な場所につながることができると、良いと思います。
夜間や気になったときにすぐに返事を得られるのはランタンなどのシステムかもしれません。個別性の強い質問は医師・看護師・がん相談支援員・がんや緩和の認定看護師。顔を知った間柄で、相手の表情や理解度をみながら対応できるのは人ですね。忙しいかなとか遠慮して聞けなくなってしまうのも人が相手の時です。
大きく分けて、2つあると思います。まず一つは、公的な人と場所です。治療情報など日進月歩の医療分野や保険制度など、専門知識の必要な分野は人材の豊富な公的な病院などの組織にお任せざるを得ません。もう一つは、ボランティアの支援です。24時間対応とは言えませんが、個人の家庭環境や生活習慣、さらに生き方までサポート可能です。病院の支援センターの集まりは、治った人の自慢の場所になりかねません。再発すれば行き場がありません。ただ、ボランティアにはいろいろな人が居ます。これを見分ける事が課題です。
ピアサポーターやがん医療ネットワークナビゲーターが、もっともっと多くなり、地域の身近なところに来てくださり、いつでもどこでも相談に乗っていただけ、適切なおところ、特にがん相談支援センターにつながっていただけると嬉しく思います。
誰もが適切な情報にナビゲートできる社会になると良い。正しい情報は医療者が持っているが、それ以外はさまざまな場所（公共施設、役所、ネット上など）に情報があり、そこへ早く、正確にナビゲートする人が身近にいるような環境が望まれる。
病院の主治医、がん相談支援センター。ただし、主治医とは限られた時間での対話であり、がん相談支援センターは相談予約がとりづらい可能性がある。「ランタン」やがん情報を自身で収集しつつ、取捨選択できることが理想と考える。患者が情報を取捨選択できるような支援が、病院の相談支援者には求められていると考える。
今の情報が溢れすぎる時代、ITが得意かどうか、触れる情報が自分にとって役に立つのかなど。その情報を取捨選択できるスキルがあるかないかで、正しいがんの情報にたどり着けるかどうか大きく左右することが、今日のお話を聞いてとても理解できました。

Q11.本日のフォーラムでもっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことなどをご自由にお書きください。

正しい情報にたどり着き、それを知らせるための具体策 …4

AI・IT利用の難しさを感じた …3

活用の仕方をより具体的に（相談支援センターなど） …2

提供される情報、冊子等拠点病院で統一してほしい。

2人に1人以上が罹患する病気。医療の一つとして意思決定をするのに十分な情報の提供や相談をする仕組みをつくって欲しい。個人任せではリソースの有無で必ずたどりつけない人が出てくると思うので。本日は貴重な機会を賜り、ありがとうございました。

がんの生存率の統計が進んでいることが良かったです。がん情報へのアクセスが意外に難しい人達がいること、がん相談支援センターというものが存在することを知ることができました。

患者本人だけでなく、家族・親族が情報を得る手段。家族・親族だけで情報を取りに行く場所としての病院の活用の紹介。現在のマギーズハウスの役割と地方に同様の施設、サービスはあるか。

緩和ケア、在宅を考える時に、まず使えるサービス、支援拠点の探し方、知っておかないといけない介護保険、最初にしないといけない手続きや医療サービスの選び方など。「私はどうすればいいのか」自分ごとになった時に悩みます。

【ご意見・ご感想】

大変参考になった、勉強になった …8件

ランタン（とその使いやすさ）を初めて知った …5件

情報提供先を知ることができた …3件

新しい情報を得ることができた …2件

<p>これだけの多情報社会、患者が何を抜粋していけばよいか、患者を支援する一員として考えさせられました。</p>
<p>今日まで情報は多ければ多いほどいいと思っていましたが、そうではなくて、その人にとって必要な、正しい、適切な内容を適切なタイミングで提供することだと痛感しました。今後の支援に活かしていきたいと思います。</p>
<p>患者として療養に密接にかかわる内容を考えることができました。ありがとうございます。これからも今日教えて頂いたHPを活用したいです。また、情報の収集だけでなく、ランタンの仕組みは患者の孤立感をなくす活動にも利用できそうだなと感じました。</p>
<p>大変わかりやすく、納得や共感の持てる内容でした。ありがとうございました。正しい情報発信とその入手先のナビゲートが、大切かと思えます。また、がん相談支援センターにつなぐ役割を担う、がん医療ネットワークナビゲーターや寄り添うピアサポーターの役割が益々、大切になっているのではと思います。もっと身近な存在に、誰でも知っている存在になると良いと思いました。</p>
<p>がん患者のさまざまなサポートがあることを知った。この先、自分や家族ががんになった時に主治医に何でも言えるとは思えないし、うまく情報を掴むことも難しいと考える。でも、いろいろ手段はあるのだと知れば少し心強い。拝聴できて良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>より良い治療・療養の選択につながるよう、対象者とコミュニケーションを図り、寄り添えるよう努めたいと思いました。</p>
<p>看護師としてがん患者と関わった事はありませんでしたが、実際に自分の家族がステージ4のがんと診断されて動揺し、自分に合った情報の大切さ、取捨選択することの難しさを感じていました。偶然このセミナーを知り参加し、欲しかった情報にたどり着けそうな気がしています。家族は自宅のある大阪ではなく、事情があり私のいる沖縄の離島で治療を開始しました。いずれ大阪に戻る予定ですが、離れた地から正しい有益な情報を得る事の困難さがありました。ランタンは離島など医療・社会資源の限られた地方に住む人にこそ必要なツールだと感じました。</p>
<p>在宅がんウィット、プロジェクトランタン教えて頂き勉強になりました。がんとの共生、悩み不安を取り除き正しい情報を共有できる相模原市に住んでピアサポートがある事に感謝致します。</p>
<p>6年前にスキルス性胃がん3bでした。家族がさまざまな治療法をネット、本等調べて手術後の治療について惑わされました。主治医から情報に惑わされては駄目だと言われました。標準治療を受け再発も無く現在元気にしております。</p>
<p>先生方が一生懸命頑張ってください。支援の皆様も患者や家族の事を考えて下さって有難いと本日、感じました。参加してよかったです。ありがとうございます。ちゃんと口に出して伝えるようにします。</p>
<p>知らないよりは知っている、知識はある方が絶対に良いと思うので、求められなくとも、出来る事、学べる事はこれからも続けようと思います。変な情報にはひっかからないためにも、学びは大切ですね。</p>